

平成28年
火災・救急・救助統計



瀬戸市消防本部

火災

出火件数 36 件（前年比 5件増）
 死者 0 人（前年比 1人減）
 負傷者 5 人（前年比 1人減）

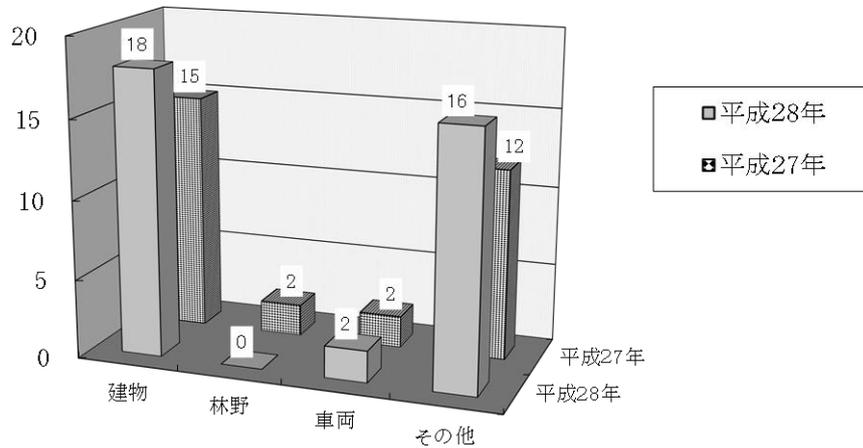


1 火災概要

平成28年の出火件数は36件で、昭和45年に現在の方法で統計を取り始めて以来、前年の31件に次いで、2番目に少ない出火件数となりました。

火災種別は「建物火災」が18件で最も多く、全体の半数を占め、次いで「その他火災」が16件、「車両火災」が2件でした。「林野火災」は発生しませんでした。前年と比べると、「建物火災」が3件、「その他火災」が4件それぞれ増加し、「車両火災」は増減なしでした。

また、火災による死者は発生しませんでした。スプレー缶のガス抜き中に引火しやけどをするなど、負傷者が5名発生しました。



火災発生状況

区分 月別	出火件数						焼損棟数	焼損面積		損害額 (千円)	死傷者		
	計	建物	住宅	林野	車両	その他		建物 m ²	林野 a		死者	住宅	負傷者
1月	4	2	1	0	0	2	2	0	0	1	0		0
2月	4	2	2	0	1	1	7	259	0	29,494	0		1
3月	9	5	3	0	0	4	5	67	0	3,774	0		0
4月	2	1		0	0	1	0	0	0	2,750	0		0
5月	5	4	4	0	0	1	3	26	0	857	0		2
6月	3	2	1	0	0	1	1	0	0	271	0		0
7月	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0		0
8月	5	1	1	0	0	4	1	12	0	3,087	0		0
9月	1	0		0	1	0	1	0	0	315	0		1
10月	1	1		0	0	0	1	0	0	7	0		1
11月	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0		0
12月	2	0		0	0	2	0	0	0	0	0		0
計	36	18	12	0	2	16	21	364	0	40,556	0		5
平成27年	31	15	8	2	2	12	19	334	47	26,840	1	1	6

2 焼 損 状 況

建 物	364	m ²	(前年比	30m ² 増)
林 野	0	a	(前年比	47a減)
焼損棟数	21	棟	(前年比	2棟増)



前年に比べ建物焼損面積は30m²、焼損棟数は2棟それぞれ増加しました。

「林野火災」は発生しませんでした。

3 損 害 額

総 額 40,556 千円 (前年比 13,716千円増)

平成28年の損害額は40,556千円で、主に建物火災の増加や、それに伴う焼損面積の増加により、損害額は前年に比べ13,716千円増加しました。

最近10年間では、前年の26,840千円に次いで2番目に少ない損害額でした。

4 初 期 消 火 実 施 状 況

平成28年中

区 分 火災種別	火災件数 (A)	初期消火 実施件数 (B)	初 期 消 火 の 種 類				実施率(% (B)/(A)	平成27年 実施率(%)
			消火器	水バケツ	水道水・ 汲み置き水等	その他		
建物火災	18	10	6	0	2	2	55.6	66.7
林野火災	0	0	0	0	0	0	0.0	50.0
車両火災	2	2	2	0	0	0	100.0	100.0
その他火災	16	11	3	0	7	1	68.8	41.7
合 計	36	23	11	0	9	3	63.9	58.1

5 連区別火災発生状況

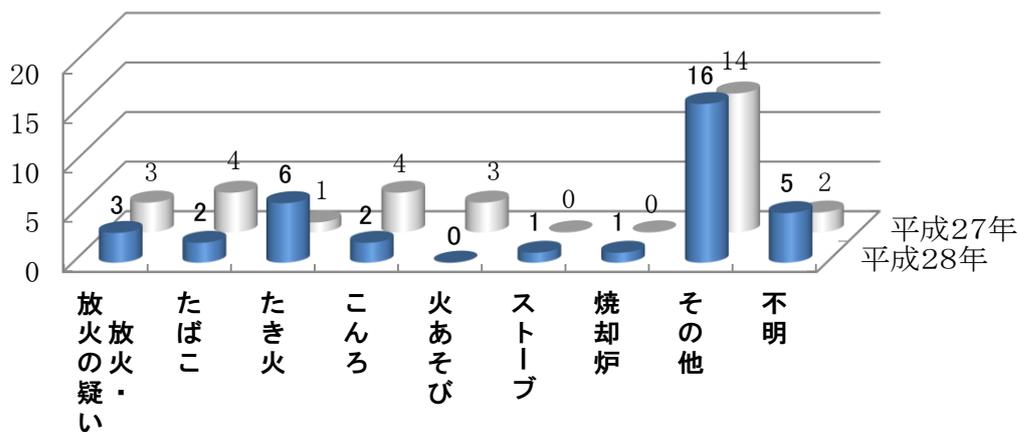
火災発生状況を連区別でみると、水野連区と品野連区がそれぞれ5件で最も多く、次いで下品野連区と菱野連区がそれぞれ4件の順になっています。無火災連区は、道泉、深川、陶原、西陵及び山口の5連区でした。

連区別火災発生状況

連区別 区分	計	道 泉	深 川	古 瀬 戸	東 明	祖 母 懐	陶 原	長 根	效 範	水 南	水 野	西 陵	原 山 台	萩 山 台	八 幡 台	品 野	下 品 野	山 口	本 地	菱 野	新 郷
建 物	18	0	0	2	1	1	0	1	2	1	0	0	1	1	1	1	2	0	1	2	1
林 野	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
車 両	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
その他	16	0	0	0	1	0	0	1	0	1	5	0	0	0	0	3	2	0	1	2	0
計	36	0	0	2	3	1	0	2	2	2	5	0	1	1	1	5	4	0	2	4	1
平成27年	31	3	0	0	2	1	1	1	0	1	6	1	3	0	0	3	1	1	1	4	2

6 出 火 原 因

- 1 位 たき火 6件 (16.7%)
- 2 位 放火・放火の疑い 3件 (8.3%)
- 3 位 たばこ 2件 (5.6%)
- 3 位 こんろ 2件 (5.6%)



《出火原因の第1位は「たき火」》

出火原因別にみると、「たき火」が6件で最も多く、次いで「放火・放火の疑い」が3件、「たばこ」と「こんろ」がそれぞれ2件という状況でした。

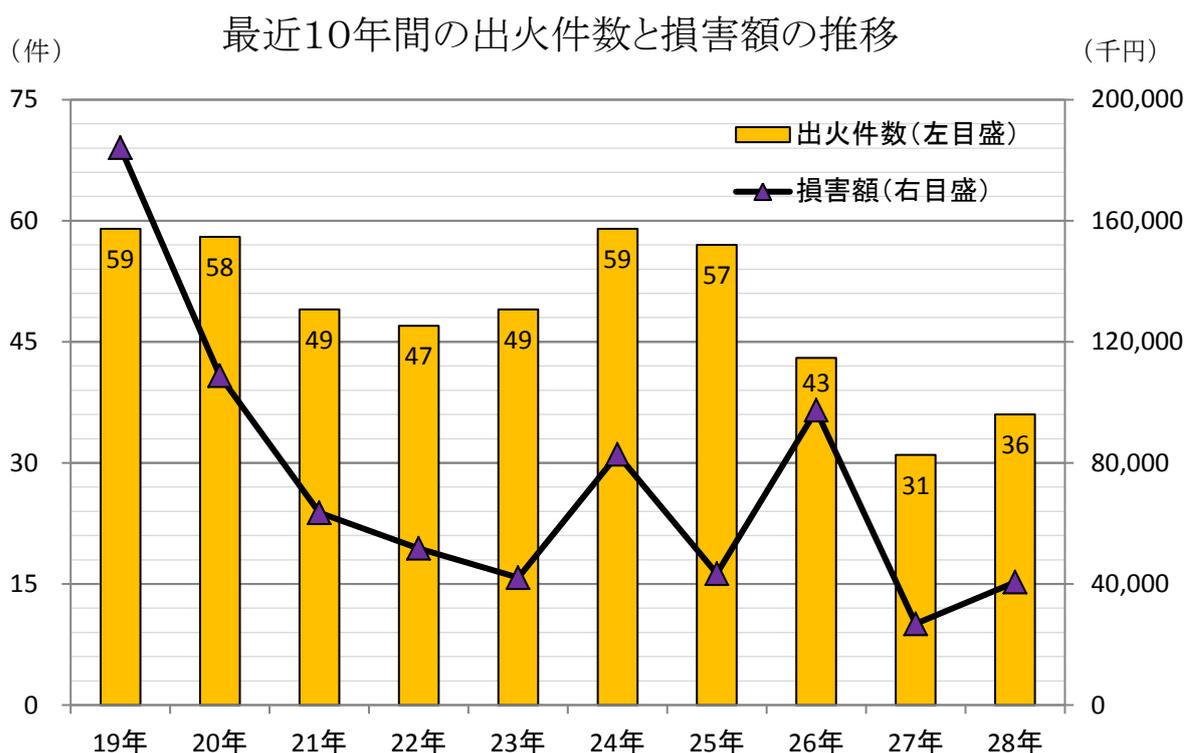
「たばこ」は2件とも住宅火災の原因となっており、こたつの布団や付近のごみに着火したものです。

「放火・放火の疑い」は、安心・安全パトロールの成果などにより、昨年と同数の3件で、過去10年間で最少となりました。

7 火災発生状況の推移

平成28年の出火件数を最近10年間の平均値と比較すると、「建物火災」は2件、「林野火災」は7件、「車両火災」は3件、「その他火災」は1件、それぞれ下回りました。また、同様に比較すると建物焼損面積は554㎡、損害額は33,540千円下回りました。

年 別	出 火 件 数						焼 損 面 積		死 傷 者 数		損 害 額 (千円)
	合計	建物	住宅	林野	車両	その他	建物 (㎡)	林野 (a)	死者	負傷者	
平成19年	59	25	16	10	8	16	3,324	47	1	6	184,095
平成20年	58	26	18	7	7	18	1,300	24	2	6	108,733
平成21年	49	18	11	10	3	18	310	25	2	10	63,478
平成22年	47	21	15	9	2	15	532	17	3	3	51,715
平成23年	49	21	10	8	5	15	619	188	3	6	42,041
平成24年	59	19	7	6	9	25	1,125	53	2	5	82,769
平成25年	57	21	13	9	4	23	498	79	1	8	43,391
平成26年	43	16	12	6	7	14	773	15	1	6	97,342
平成27年	31	15	8	2	2	12	334	47	1	6	26,840
平成28年	36	18	12	0	2	16	364	0	0	5	40,556
10年間平均	49	20	12	7	5	17	918	50	2	6	74,096



救急

救急出動件数 5,304件(前年比 56件減)

救急搬送人員 5,063人(前年比 10人減)

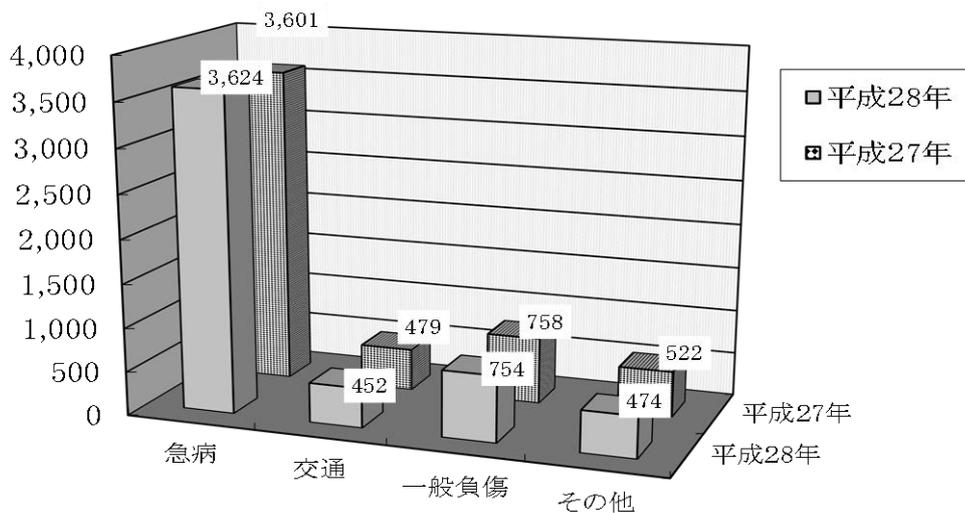


1 救急概要

救急出動件数は5,304件で、前年に比べ56件減少しましたが、6年連続で5千件を超え、月平均442件、一日平均14.5件という状況でした。

事故種別でみると、「急病」が3,624件で全体の68.3%を占め、次いで「一般負傷」が754件(14.2%)、「交通事故」が452件(8.5%)という状況でした。

救急搬送人員は5,063人で、前年に比べ10人減少しました。



月別救急出動状況

区分 月別	計	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
1月	446	0	0	0	36	4	0	68	0	4	309	25
2月	435	1	0	0	42	2	2	46	0	5	307	30
3月	452	0	0	0	30	5	2	69	2	4	313	27
4月	396	0	0	0	27	7	4	57	2	0	278	21
5月	446	2	0	0	53	4	5	53	2	3	302	22
6月	388	0	0	0	37	6	6	59	0	5	259	16
7月	466	0	0	0	43	4	7	64	2	6	313	27
8月	458	0	0	0	36	9	3	63	1	7	314	25
9月	407	1	0	0	27	3	4	54	0	4	286	28
10月	449	1	0	0	36	7	1	90	1	3	274	36
11月	449	0	0	0	47	3	5	58	1	1	316	18
12月	512	0	0	0	38	6	5	73	1	1	353	35
計	5,304 (5,063)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	452 (454)	60 (54)	44 (44)	754 (748)	12 (8)	43 (30)	3,624 (3,450)	310 (270)
平成27年	5,360 (5,073)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	479 (486)	48 (48)	39 (33)	758 (738)	22 (20)	36 (16)	3,601 (3,442)	371 (284)

【備考】()内は、救急搬送人員を示す。

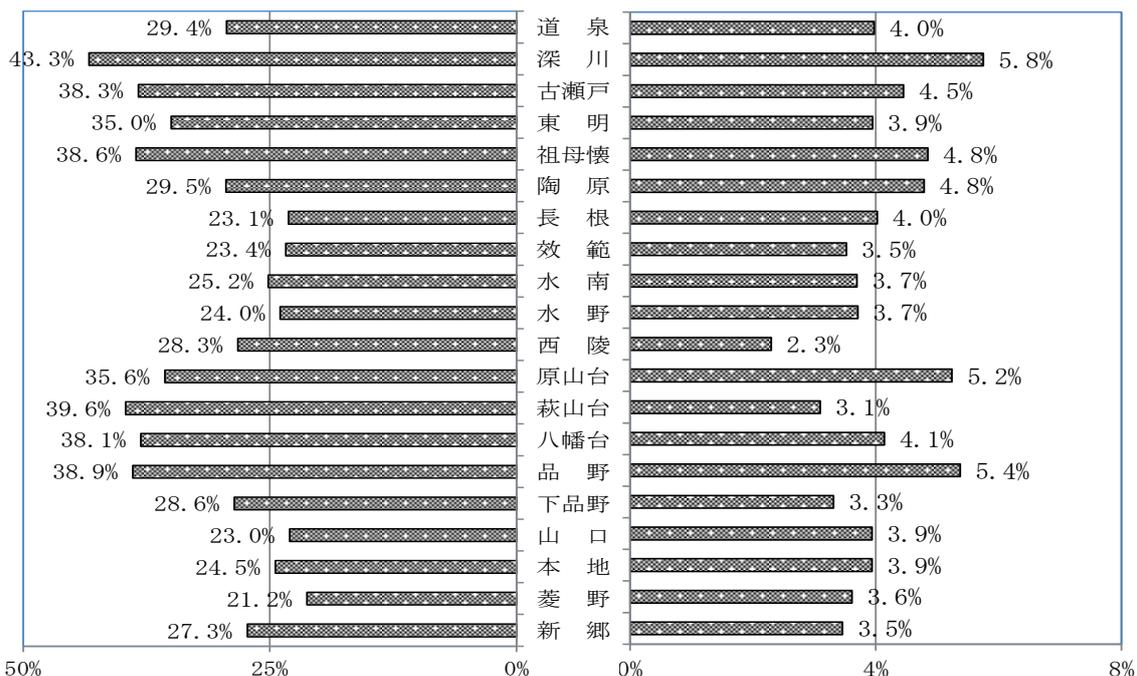
2 連区別救急搬送人員

区分	急病	一般負傷	交通事故	その他	合計
道 泉	119	28	13	6	166
深 川	95	24	9	7	135
古瀬戸	113	30	11	3	157
東 明	79	25	24	2	130
祖母懐	96	29	8	5	138
陶 原	238	46	38	42	364
長 根	237	64	49	21	371
效 範	454	82	44	73	653
水 南	263	57	26	57	403
水 野	234	48	40	29	351
西 陵	142	33	9	7	191
原山台	177	32	2	13	224
萩山台	94	16	2	3	115
八幡台	162	32	2	8	204
品 野	111	35	29	13	188
下品野	195	36	12	8	251
山 口	212	42	40	62	356
本 地	144	29	42	9	224
菱 野	113	32	19	26	190
新 郷	163	26	19	15	223
管区外	9	2	16	2	29
合 計	3,450	748	454	411	5,063

【備考】「その他」とは、「急病」、「一般負傷」及び「交通事故」以外の事故種別をいう。

老年(65歳以上)人口率(市平均 28.1%)

救急搬送率(市平均 3.9%)

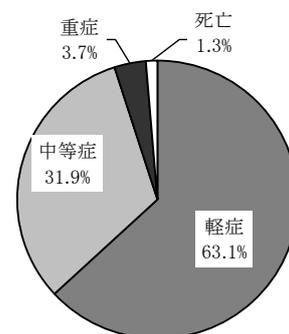


【備考】人口は平成28年4月1日のデータによる。

3 傷病程度別搬送人員

救急搬送人員のうち、死亡、重症及び中等症を合わせた傷病者の割合は全体の36.9%、軽症の傷病者は3,196人(63.1%)でした。

程 度 別	搬 送 人 員
死亡	67
重症(3週間以上入院)	184
中等症	1,616
軽症(入院なし)	3,196
合 計	5,063



4 年齢区分別搬送人員

年齢区分別の搬送人員をみると、高齢者が3,153人(前年比4人増)で全体の62.3%を占めています。また、「急病」のうち高齢者の占める割合は66.7%で、「一般負傷」のうち高齢者の占める割合は72.1%でした。

事故種別 年齢区分	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
新生児 (構成比:%)	1 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (1.9)	9 (0.2)
乳幼児 (構成比:%)	156 (4.5)	8 (1.8)	51 (6.8)	10 (2.4)	225 (4.4)
少年 (構成比:%)	87 (2.5)	56 (12.3)	32 (4.3)	37 (9.0)	212 (4.2)
成人 (構成比:%)	906 (26.3)	268 (59.0)	126 (16.8)	164 (39.9)	1,464 (28.9)
高齢者 (構成比:%)	2,300 (66.7)	122 (26.9)	539 (72.1)	192 (46.7)	3,153 (62.3)
合計 (構成比:%)	3,450 (100.0)	454 (100.0)	748 (100.0)	411 (100.0)	5,063 (100.0)

【備考】年齢区分は次によっている。

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 新生児 生後28日未満の者 | 2 乳幼児 生後28日以上満7歳未満の者 |
| 3 少年 満7歳以上満18歳未満の者 | 4 成人 満18歳以上満65歳未満の者 |
| 5 高齢者 満65歳以上の者 | |

5 救命率の推移

(%)

区分	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
瀬戸市	55.6	40.0	50.0	40.0	14.3
愛知県	28.6	29.9	27.2	34.6	
全国	21.5	22.4	23.0	28.4	

※ 救命率とは、①目撃のある突然心肺停止である、②AEDが使用できる心電図波形(VF・VT)である救急患者を救急搬送し、1か月後に社会復帰できた割合をいう。

※ 平成28年中の愛知県・全国の「救命率」は平成29年1月現在未発表

6 バイスタンダーCPR実施状況

(%)

項目		平成24年			平成25年			平成26年			平成27年			平成28年		
		発生 件数	実施 件数	実施率												
目撃	あり	47	25	53.2	52	37	71.2	41	26	63.4	51	36	70.6	44	28	63.6
	なし	82	58	70.7	73	57	78.1	78	59	75.6	76	61	80.3	68	51	75.0
	合計	129	83	64.3	125	94	75.2	119	85	71.4	127	97	76.4	112	79	70.5

※ バイスタンダーCPRとは「救急現場に居合わせた人が行う心肺蘇生法」をいう。

7 救急出動件数の推移

救急出動件数は、平成19年の4,717件に対し、平成28年には5,304件と587件(12.4%)増加しました。事故種別でみると、「交通事故」は減少傾向ですが「急病」と「一般負傷」が大きく増加しています。10年間の平均値と比較すると、「急病」が264件、「一般負傷」が93件それぞれ上回っています。

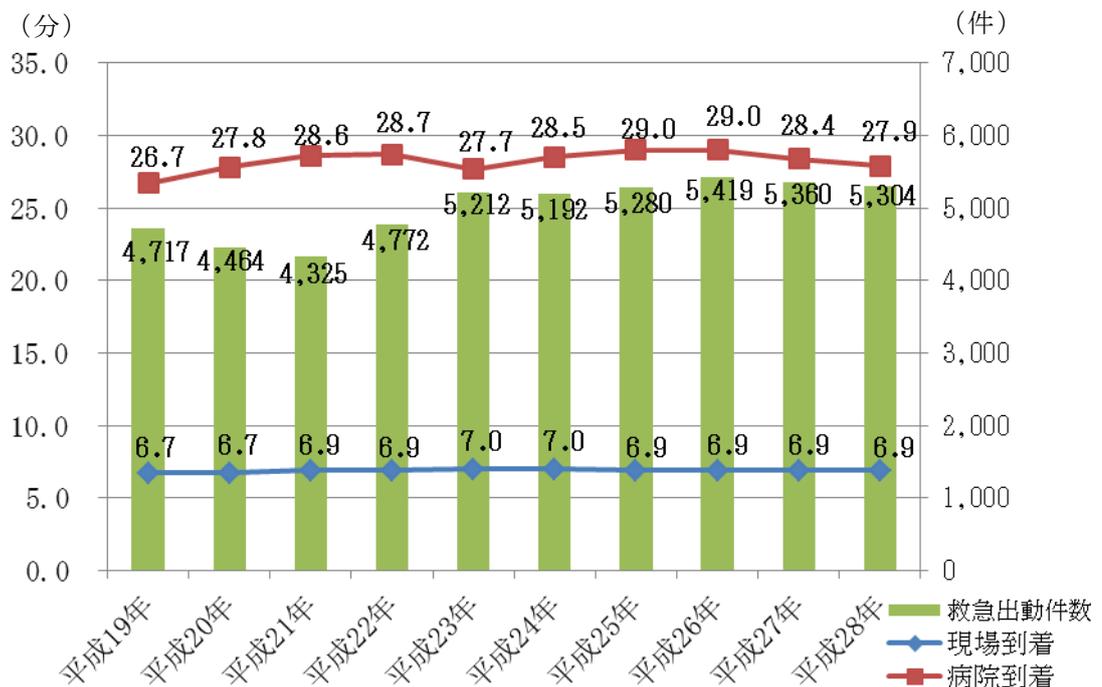
最近10年間の救急出動状況

区分 年別	計	対前年 増加率 (%)	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	他消防本部 援助部
平成19年	4,717	5.8	9	0	0	503	40	27	575	25	68	3,149	321	3
平成20年	4,464	▲5.4	9	0	0	465	48	30	577	22	53	2,981	279	5
平成21年	4,325	▲3.1	7	0	0	434	41	31	549	33	43	2,916	271	6
平成22年	4,772	10.3	1	0	2	479	53	38	613	22	52	3,164	348	12
平成23年	5,212	9.2	9	0	1	482	47	57	667	30	61	3,487	371	17
平成24年	5,192	▲0.4	2	0	0	437	58	32	685	33	46	3,482	417	5
平成25年	5,280	1.7	7	0	0	480	39	46	650	21	51	3,574	412	20
平成26年	5,419	2.6	5	0	0	472	35	35	785	16	36	3,625	410	44
平成27年	5,360	▲1.1	6	0	0	479	48	39	758	22	36	3,601	371	27
平成28年	5,304	▲1.0	5	0	0	452	60	44	754	12	43	3,624	310	23

▲は減を示す

10年間平均	5,005	1.2	6	0	0	468	47	38	661	24	49	3,360	351	16
--------	-------	-----	---	---	---	-----	----	----	-----	----	----	-------	-----	----

最近10年間の救急出動件数及び現場・病院到着平均所要時間の推移



救助

救助出動件数 54 件
 (前年比 18件減)
 救助人員 25 人
 (前年比 14人減)



1 救助概要

救助出動件数は54件で、このうち、救助活動を実施した件数は27件、救助人員は25人でした。

事故種別でみると、「建物等による事故」が25件で最も多く全体の46.3%を占め、次いで「交通事故」が17件(31.5%)という状況でした。

前年と比べると、「建物等による事故」が9件、「交通事故」が3件、「ガス及び酸欠事故」が3件、「機械による事故」が2件、「その他の事故」が1件、それぞれ減少しました。

「その他の事故」は、車内閉じ込め(インロック)2件などを含め10件発生しています。

月別救助件数

区分 月別	計	火災	交通事故	水難事故	自然風水 災害等	機械に よる事故	建物等 による事故	ガス及 酸欠事 故	破裂事 故	その 他の
1月	8 (5)	0	4 (2)	0	0	0	2 (2)	0	0	2 (1)
2月	6 (4)	0	2 (0)	0	0	0	3 (3)	0	0	1 (1)
3月	4 (3)	0	0	0	0	0	4 (3)	0	0	0
4月	3 (2)	0	1 (0)	0	0	0	1 (1)	0	0	1 (1)
5月	6 (3)	1 (1)	0	0	0	0	3 (1)	0	0	2 (1)
6月	0 (0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	5 (2)	0	1 (0)	0	0	0	2 (1)	0	0	2 (1)
8月	7 (3)	0	2 (1)	0	0	0	5 (2)	0	0	0
9月	1 (0)	0	0	0	0	0	1 (0)	0	0	0
10月	6 (1)	0	3 (0)	0	0	1 (1)	1 (0)	0	0	1 (0)
11月	3 (1)	0	1 (0)	0	0	0	1 (1)	0	0	1 (0)
12月	5 (3)	0	3 (1)	0	0	0	2 (2)	0	0	0
計	54 (27)	1 (1)	17 (4)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	25 (16)	0 (0)	0 (0)	10 (5)
救助人員	25	2	4	0	0	1	13	0	0	5
平成27年	72 (39)	1 (1)	20 (8)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	34 (20)	3 (2)	0 (0)	11 (6)
救助人員	39	1	8	0	0	2	20	2	0	6

【備考】()内は、救助活動件数を示す。

2 連区別救助出動件数

連区名	計	道泉	深川	古瀬戸	東明	祖母懐	陶原	長根	效範	水南	水野	西陵	原山台	萩山台	八幡台	品野	下品野	山口	本地	菱野	新郷	管外
出動件数	54	6	1	2	4	1	3	3	4	4	6	1	2	0	1	3	2	4	1	2	3	1

3 救助出動件数の推移

救助出動件数は平成22年以来、6年ぶりに60件を下回りました。特に「交通事故」は最近10年間で最も少ない17件でした。

また、平成28年の事故種別救助出動件数を10年間の平均値と比較すると、「建物等による事故」は7件上回りましたが、全体では5件下回っています。

年別	区分	計	火災	交通事故	水難事故	自然風水 災害等	機械による 事故	よ建物等 に	酸ガス及 び	破裂事故	その他
平成19年		42 (20)	0	25 (13)	0	0	3 (1)	5 (1)	0	0	9 (5)
平成20年		51 (26)	3 (3)	20 (7)	0	0	0	14 (6)	1 (0)	0	13 (10)
平成21年		47 (23)	0	28 (11)	0	0	1 (1)	9 (5)	1 (1)	0	8 (5)
平成22年		48 (17)	1 (1)	19 (4)	2 (0)	0	2 (1)	10 (5)	1 (1)	0	13 (5)
平成23年		62 (32)	1 (1)	22 (9)	2 (2)	0	8 (3)	16 (10)	0	0	13 (7)
平成24年		71 (41)	2 (2)	22 (10)	1 (0)	0	4 (2)	23 (14)	0	0	19 (13)
平成25年		67 (30)	2 (2)	30 (10)	1 (1)	0	1 (1)	21 (14)	1 (0)	0	11 (2)
平成26年		71 (29)	0	30 (8)	0	0	1 (1)	23 (10)	0	0	17 (10)
平成27年		72 (39)	1 (1)	20 (8)	0	0	3 (2)	34 (20)	3 (2)	0	11 (6)
平成28年		54 (27)	1 (1)	17 (4)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	25 (16)	0 (0)	0 (0)	10 (5)
平均		59 (28)	1 (1)	23 (8)	1 (0)	0 (0)	2 (1)	18 (10)	1 (0)	0 (0)	12 (7)

()内は、救助活動件数を示す。

《平成28年度全国統一防火標語》

消しましょう
その火その時
その場所で



平成28年火災・救急・救助統計

編集 瀬戸市消防本部 消防課
発行 平成29年1月

〒489-0983 瀬戸市苗場町101
TEL 0561-85-0479
FAX 0561-21-6605

U R L ▶ <http://www.city.seto.aichi.jp/bunya/toukei-nenpou/>

E-mail ▶ shobohonbu@city.seto.lg.jp